

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091300030		
法人名	サンコーケアライフ株式会社		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	福岡県福岡市城南区桶井川1-7-38 (電話) 092-873-8354		
自己評価作成日	平成 25 年 4 月 30 日	評価結果確定日	平成 25 年 7 月 10 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域との交流が活発にあり、運営推進会議にも多数参加されています。入居者さんと職員は、地域の夏祭りや餅つき、ふれあいサロンに誘って頂いています。また、施設の祭りや餅つきにお招きして、近所の方とも顔なじみになり、散歩や買い物の時、良く声を掛けて頂くようになっています。入居者の状況把握を入念におこない、「思い」「願い」を介護計画に反映しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 5 月 23 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は鉄筋2階建て2ユニットで、母体法人が運営する介護付有料老人ホームと隣接している。住宅街の中にあり、近くには保育所もある。地域との良好な関係づくりに力を入れており、地域の行事・活動、事業所主催の行事の他、運営推進会議や防災訓練などを通して、活発な交流が図られている。少人数定員の良さを生かして、日頃から利用者一人ひとりへの個別対応がなされており、重度要介護者への対応も行っている。理念にある「笑顔とやさしさ」「共に生きる喜びを分かち合う」を、職員は一丸となって実践している事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生きる」を共通の「理念」として、リビングのいつも見えるところに掲げ、忘れる事無く共有し実践できるように心掛けている	地域密着型の視点での事業所独自の理念があり、この理念の実践に向けてミーティングや申し送りの時、日常の時々で確認をしながら意識的に取り組んでいる。理念は、それぞれのユニットの目立つ所に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあいサロンや夏祭りなどの行事に参加して顔なじみになっている。又、事業所の祭りや避難訓練などには、近所の方々にも参加して頂き入居者との交流が図られるようにしている。	町内会に加入し、地域の清掃活動や夏祭りなどの行事に参加している。また、事業所主催の夏祭りや餅つき大会等の行事にも地域住民の参加があり、地域に定着している。近隣の保育園との交流や中学生の職場体験、ボランティアの受け入れも行っている。近所から漬物などをいただいたり散歩の際には声をかけ、と築かれた親しい間柄を保ち続けようと努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	可能な限り地域の行事には参加し、職員がどのように入居者と関わっているかを実際に見て頂いている。また、運営推進会議に地域の方が多く参加して頂き、日常生活も見て頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や包括センター、市役所の職員、ご家族に参加して頂き、入居者の生活状況、勉強会、スタッフ会議などを報告し、参加者の気付き、意見を聞きサービス向上につなげている。	2ヶ月に1回定例開催しており、利用者の家族・包括職員・地域住民代表等の他、近所の方や市職員等が参加する事もある。利用者がくつろいでいる場所で開催しており、利用者の意見を聞く事もできる。利用者やサービスの実情報告、評価に対する取組状況の話し合いの他、認知症の理解や介護計画などについての意見をサービスに生かす取り組みも行っている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回ではないが、運営推進会議に参加して頂いている、家族からの問い合わせ、質問、疑問点はすぐに市町村担当者に尋ね、問題解決に努めている。	市関係者や地域包括支援センターとは運営推進会議への参加を通してのほか、相談や報告に向いたり、入所者の紹介を受ける等、日常のやり取りを迅速・適格に行い、親交を図っており、協力関係は築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の取り組みなどにより、身体拘束はしていない。服薬や言葉の拘束も身体拘束ゼロの意識を持っている為行っていない。	身体拘束に関する指針、マニュアルがあり、研修も行っている。事業所では、身体的な拘束に加え、利用者の行動を抑制しないような言葉かけにも日頃から注意をしている。終日玄関・居室は施錠しておらず、利用者の外出傾向を把握、見守り等を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待における研修会、接遇マナー、職員での勉強会を行い職員同士で注意し合うようにしている。管理者は、職員の体調管理に努め、ゆとりのある介護が出来ている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、情報提供と家族からの質問にいつでも答えられるようにしている。パンフレットの準備も行っている。	権利擁護に関する制度については契約時に説明することになっている。また、求めに応じて随時説明を行っており、パンフレットを備えている。職員に対しての研修もなされている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず入居時に契約書、重要事項説明書に記載されている事を丁寧に説明し、質問に答え納得して頂いた後に捺印してもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は、どんな些細な事も話しやすい雰囲気を作り心を掛けている。意見・要望はすぐに話し合い、支援に反映させるようにしている。	利用者は日頃の会話のなかで管理者や職員に随時意見や思いを伝えており、伝えられない方に対しては家族から聴き取っている。また、家族に対しては、意見箱の設置や苦情の申し出先の説明も繰り返し行っている。家族からは、面会時に職員に口頭で話される事が多い。事業所は、随時、意見や思いを運営に反映できるよう努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務連絡会や、全体ミーティング、フロアミーティングなど定期的に行いいつでも職員の意見・提案を話せる職場環境になっている。（1ヶ月1回、社長も参加され、職員との意見交換がある）	管理者は、随時、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりの工夫をし、アイデアの取り入れや楽しんで仕事に従事できるような配慮を行っている。「手作りおやつ」の取り組みも職員からの意見がきっかけであった。異動や離職は最小限に抑え、職員交替の引継には約1ヶ月の期間を取っている。今回の自己評価には全職員で取り組んだ。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員への登用も進んでおり、日々の努力がボーナスや月間努力賞などに反映されている。その他に勉強会や研修会、資格取得を積極的に勧められ、参加時は勤務扱いとなり、費用は全て会社が負担している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	ホームでは、多様な年齢層が勤務している。介護についての考え方や向上心をどの様に活かしたいかを聞き、職員の個性が十分に発揮できるようにしている。	採用選考時には、経歴・経験は参考とし、認知症や尊厳の理解、笑顔や挨拶などを選考の基準とするが、性別や年齢等を理由に対象から排除する事はない。また、上級資格取得の支援など個人のレベルアップにも前向きで、安心して働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「理念」にそって、地域活動、勉強会、研修を行う事によって職員が常に考え意識を持って行動している。	実践者研修の人権に関する研修を受講、伝達研修を行うなど、人権教育・啓発活動に特化して学習、実践に結び付けている。研修のテキスト・パンフレット・研修記録がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	より良いサービスが出来る様に介護や医療に必要であれば社外研修や勉強会に参加し、又は講師を招いての研修など、職員の育成に取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に必ず、本人と面談し、「何を望んでいるのか」「どう思っているのか」把握し、より良い人間関係を保ち信頼関係を築いていけるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望・意向を聞き、話し合いながら信頼関係を築けるようにしている。家族間の意見の違いが多い時は、常に中間的な立場で意見の調整が出来るようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族より、生活状況を詳しく伺って把握し、どのような支援が適切か見極めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする時、どんなに認知症が進んでいても気づかされる事や教えられる事が沢山あります。本人の立場になって考える様に努めている。出来る事、出来ない事を考え役割を持ってもらっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が些細な気づきや発見を家族に報告し、どんなことでも話し合える様な信頼関係を築き、支援が出来る様にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会は多いが、知人や友人の訪問が少ない様に思う。高齢者が多いので、知人や友人の数が減っている。遠方の知人には電話や年賀状などで関係が途切れない様な支援に努めている。	管理者及び職員は、利用者の馴染みの場所や人について利用者及び家族から把握しており、遠方の親族や知人に、電話や手紙で連絡をとったりする支援を行っている。また、利用者が地域や地域住民との関係を継続できるような働きかけを行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況を全職員が把握し、上手にコミュニケーションが取れる様に努める。適切な声掛けやふれあいを大切にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者、家族とは連絡を取り合い状況を尋ねる様にしている。転居の際はそれまでの生活状況が分かる情報提供に努め、早く新しい環境に馴染む様に支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自ら訴えることが出来ない方が多いので、日常生活の中で本人の言葉や行動、会話から把握するようにしている。何気ない一言や思いもよらない行動を見逃さないようにして全員で情報を共有している	利用者の暮らし方の意向や希望を把握するため、入居前には面談による入所判定会議を行い、生活歴等の聞き取りやケアチェックシートを活用したADLの把握を行っている。更に医療機関からの情報を合わせ、2週間の暫定介護計画を作成し援助を行っている。常日頃から職員は利用者との会話を重視し、思いを汲み取るように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にフェースシートを作成して、把握している。また日常の関わりを密にしてコミュニケーションをとり、より詳しい内容にして日々の生活に役立てている		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、ミーティング・ケアカンファレンス、入居者との関わり等において全職員が現在の状態を把握している。常に入居者と向き合い知る事が大切と心得ている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	このホームにて楽しく幸せに暮らしてもらい、又、生きがいを見出して貰うために、モニタリング、アセスメント、ケアカンファレンスや家族懇談を繰り返し行い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成や変更は、サービス担当者会議や日々の関わりの中で、利用者・家族・職員・主治医の意見を取り入れて計画作成担当者が個別の介護計画を作成している。また、申し送りノートやユニット間の情報交換も参考にしている。介護計画の見直しは、3～6ヶ月に1回のペースで行っているが、状態変化や状況に応じ、随時行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日常の姿や職員のケアの実践が分かるような記録の仕方をしている。入居者の「何気ない一言」を気付き、記録する事により、よりよい介護計画ができるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、外食、買い物、花見ドライブ、散歩、誕生会など利用者の体調に合わせて計画を立てている。その際は家族にも参加を呼びかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流や親睦作りが出来る様に協力をお願いしている。消防署の方が立会され指導を受け、利用者と共に避難訓練に参加している。地域の情報は、運営推進会議やふれあいサロンにて得るようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望される方は、入居者や家族の希望を尊重している。家族と連絡を取り合い、可能な限り職員による通院を行っている。急変時のかかりつけ医、家族への連携は迅速に出来る様にしている。	本人及び家族が希望する医師がかかりつけ医となっている。病院への通院介助は、できる限り職員が行うことを基本としているが、協力医療機関以外への受診の場合は、ほとんど家族が行っている。職員、家族のどちらが通院介助を行っても診察結果を報告し、情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者と密接に関わっている介護職員が、些細な変化も見逃すことなく観察する事により、重篤にならないように努力している。すぐ近くのかかりつけ医の看護師が、対応に応じてもらっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	やむ終えず入院した時は、顔なじみの職員が面会し安心して治療ができるように支援している。その時、医療関係者と情報交換し早期退院に繋げている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り介護」はしていない事を契約時確認している。終末期にあたっては、事前に家族間で相談のうえ、同意書を取り付けている。かかりつけ医、家族、介護者の連携が欠かせない事を認識している。	重度化や終末期に向けた事業所の指針は明文化され、利用開始前に家族等へ説明を行い、意向を確認している。また、必要に応じ説明を行っている。利用者の重度化に伴い、管理者及び職員は看取りに取り組む気持ちはあるが、看護職員の配置等の課題があり実施できていないが、併設施設の看護師による内部研修を行ったことがある。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。また、消防署による講習にも参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や火災時の避難訓練を実施し、職員全員が利用者を安全に誘導できるように訓練している。又近隣住民、地域とも協力体制を築いている。食料備蓄、井戸水の設置など災害時対応をしている	年2回、消防署立会いのもと、地域住民や民生委員の参加を得て避難誘導訓練を実施している。年2回の内、1回は事業所単独で実施し、もう1回は隣接施設と合同で実施している。紙おむつや毛布等の非常用備品は事業所内の倉庫に準備され、食料・飲料水は約100名分が隣接施設の厨房内で準備されている。	非常用備品同様、食料・飲料水も事業所内に備えていただきたい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者や家族の視点に立って個人を尊重し適切な言葉掛けや利用者へ寄り添った介護を心掛けている。	集団生活の中で、個人個人のプライバシーに配慮した援助を心がけ、内部・外部の職員研修も実施している。運営推進会議で新しい利用者の紹介を行うが、その際も紹介内容に気を付けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との日常生活の中で表情や行動に注意し、言葉掛けやスキンシップを図り、思いや希望を自己決定出来る様に機会を作っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムに配慮しながら生活のペースを合わせている。又、一人ひとりに声掛けしレクリエーションや散歩など希望を尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問理美容を利用したり、家族にお願いしている。毎日の衣類、外出時などその時に合った洋服を選び、おしゃれに気をつけている。家族とも相談しながら、季節に合わせた身だしなみが出来るように、衣服の準備をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会にて希望や意見を出し、満足して頂けるように対応している。職員も入居者と会話しながら食事を楽しんでいる。「簡単手作りおやつ」を発案し、入居者がそれぞれ出来る事を担ってもらっている。	食事は隣接施設の厨房で調理されたものを職員と利用者が一緒に配膳している。皿洗い等の後片付けも利用者と一緒にやる。食事の内容は違うが、職員と利用者は同じ時間に同じテーブルで一緒に食事を摂って、楽しく和やかなひとときになるように努めている。利用者から要望が挙がれば、管理栄養士も参加する給食委員会でも前向きに検討し、早急な対応をしている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調に合わせて、量の調整や刻み食、軟飯にして食べやすく工夫している。摂取量や水分量は記録し、状態の把握に努めている。いつでも「お茶」が飲めるように身近に置いている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後誘導している。ご自分で出来る方は見守り、困難な方は職員が行う。義歯ポリデント消毒は適時行っている。拒否する方は、殆どなくスムーズに清潔保持が出来ている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1階入居者は、車椅子の方が多いが日中オムツにはせず、排泄時間を記録し、声掛け、トイレ誘導により失禁等無い様に支援している。失禁時は、清拭剤を使用し清潔を保つように努めている。	排泄の自立には力を入れている。利用者の排泄パターンを把握し、こまめに声かけを行い、日中の利用者のおむつ使用はゼロである。使用済みの排泄用品は適切処理し速やかに廃棄しており、館内は臭いがしない。利用者が排泄に失敗した場合は、周りに気付かれないようにトイレへ誘導し、更衣をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、回数や量などの把握に努めている。なるべく体を動かし水分を多く取り、下剤を使用しないでよい様に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に日中の入浴と決まっている。拒否のある方には声掛けに変化をつけ誘導行いが、無理に進める事はしないように努めている。	毎日でも入浴は可能で、入浴を好まれ楽しみにされている方が多い。週2回以上は入浴し、中には毎日入浴する方もいる。入浴を拒否される方に対しては、入浴する日の朝から声をかけ、入浴を促すようにしている。どうしても入浴されない方には無理強いせず、その日は代わりに清拭で対応する場合もある。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの習慣を尊重し、自由に休憩して頂く。体調不慮の場合は十分に見守りながら休憩して頂く。本人の生活習慣を把握している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者個々の薬の目的や用法、用量について熟知し正しい服薬ができるように支援している。誤薬予防に努め服薬前に名前、日時、食後の声出し確認をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアに努め、今までしていた習い事や特技、趣味など、出来る事や好きな事を引き出し、それを活かして日常生活に取り入れる。生き生きとした張りのある生活を支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方々や家族の協力を得ながら、ふれあいサロンや外食、ドライブ、花見などの行事をしている。希望の場所に外出できるように支援している。	天気の良い日は毎日のように近所を散歩している。その他、おやつ作りの材料購入等のために週3回買い物に出かけたり、月1回ドライブや外食に行っている。外食は利用者にも大変好評である。地域のふれあいサロンに参加しており、会場への往復は地域住民の方の協力を得て行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が金銭管理が出来ない為、管理者が預かっているが、管理の出来る方の希望があれば、本人所持で使用して頂く。職員は見守り、使用の際は、残高の確認を行い、家族へ説明し同意を得ている。。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をしていただく。家族や知人・友人に手紙を書き、投函は同行や代行でポストへ入れている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人の感覚や価値観を大切にし、共同のスペースには季節の花や絵を飾っている。温度は、カーテンの調節などで行っている。リビングでは、心地の良い音楽をかけ、リラックスできるような空間づくりに努めている。	食堂には木製のテーブルや椅子が置かれ、落ち着いた雰囲気である。居間にはソファやテレビが置かれ、テレビの音もちょうどよく設定している。各方面に大きな窓があるため、自然光が差し込み、明るい雰囲気である。家具の配置は利用者の障害にならないように、また死角ができないように配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃から、楽しく過ごして頂けるように、より良い人間関係作りに努めているが、一人でも、心地よく過ごせる様に、自分のお気に入りの場所を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを第一に考え、安心して過ごして頂いている。居室には思い出の写真や品物等を飾っている。	ベッド・エアコン以外は、利用者本人が馴染みの物を持ち込んでいる。中には仏壇などを持ち込んでいる方もいる。壁にも家族との写真等が貼ってあり、利用者が落ちついて暮らせる雰囲気が感じられる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすい環境作りを行い、事故防止に努めている。手すりの設置はもちろんだが、手の届くところに掴むものがある（イスやテーブル等）など個人の特性に合わせている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者やご家族が長い時間過ごす場所に理念を書いて貼っている。又、職員会議で話し合い実施出来る様に努力している。「笑顔とやさしさ」をいつも忘れない様に常に心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している。（ふれあいサロン、夏祭り、餅つき、町内掃除）また、事業所の行事にも地域の方が参加してくれる。散歩中、気軽に声をかけてくれ、顔見知りになっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等にてテーマを決めて情報を提供している。会議は入居者が生活している、リビング内で行い、実態を見てもらい理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて報告を行い意見交換している。地域の方や家族、他、色々な意見を参考にし、職員で共有すると共にサービス向上につながる努力をしている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議の議事録は毎回送り、解らない事は適時、質問し連携を取っている。毎回ではないが運営推進会議に参加してもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を作り、問題がおきるとすぐに話し合い、記録して家族へ報告し意見を求めている。管理者より指導も受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を繰り返し行い学んでいる。ケアカンファレンスを開き全職員と話し合う場があり、管理者が日頃より注意を払っているホームでは、「言葉による虐待」を特に気を配っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会で制度を学んでいる。以前、制度利用者もおられ、他者への助言も出来る様になっている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い理解が得られるまで説明をしている。その後、面会時に相談に応じたり、相談している必要性のある話は、その都度説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族や地域の方にも参加してもらい意見を交換している。会議での報告や意見については、その都度対応している。ホーム内での自立支援が出来る様に話し合いを重ねている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎回の申し送りや毎月のミーティング等で意見があれば、いつでも出してもらっている。必要があれば、社長や役員も参加する、業務連絡会議で話して貰うようにしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が勤務状況を把握し勤務表を皆で考え、職員の急変時に、対応出来るようにしている。努力や向上心等に応じて処遇へ反映させている。誕生日のプレゼントなど配慮して貰っている。月間努力賞もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別等の理由で採用を決定していない。希望休日や資格取得を勧め、働きやすい職場を作っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者は、人生経験豊かな高齢者と考え、介護している姿勢ではなく、出来ない事のお手伝いと考えて、各々の人権を尊重している。（人権に関する研修会への参加等ある）		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修が受けられるように、勤務表作りを行い、情報提供にて自ら、参加できる様にしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの情報交換や、見学によりサービス向上、意識の向上を図っている。（法人内に4か所グループホームがある）		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学してもらい、内容を理解出来る様にわかりやすく説明している。入院の方は病院へ行き、本人に会い直接話を伺っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談にみえる際には気軽に話せる雰囲気を作り、真剣に話を聞くようにしている。（接遇マナーを研修にて学んでいる）		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の今までの人生歴などを聞いて、本人と家族がどのような支援、介助を求めているのか、その状態にあった対応が出来る様になっている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人権を尊重し命令口調にならない様に気をつけ、日常生活が楽しく過ごせるようにしている。信頼関係の構築に努めている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも常に情報交換し家族と本人が触れ合う場もつくり、本人をしっかり支えていく関係を築けるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人には、手紙、年賀状、電話等で関係が途切れない様な支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や食事、レクリエーション等の場面で、その日の気分なども配慮し「共に生きる」の理念の実践に努めている。また、入居者間の感情にも配慮した、関係作りを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に手紙や連絡を入れ、様子を伺ったりし退去後のフォローをしている。家族もすずらんへ遊びに来られ、色々今の状況や相談をされている。（併設の有料施設に入居された方の支援は欠かさず行っている）		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活を共に過ごす事で、何気ない会話や行動を通して、本人からのサインやニーズの把握に努め、職員間でケアの統一が出来る様に、ケアカンファレンス、アセスメントを重ね介護計画に反映している		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や暮らし方の情報を作成している。ご家族の面会時に昔の話を聞いたり、本人との日々の会話の中で少しずつ充実させていってる。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身近に生活し、一人ひとりを観察し、出来る事、出来ない事、好きな事、嫌いな事等の見極め、把握に努めている。職員一人一人意見から情報を得て共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活での小さな変化は、すぐに報告し、皆で話し合い介護計画につなげている。（月1回のケアカンファレンスも行っている）		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には本人の声や変化等を記録し、職員間で情報を共有し実践や介護計画を見直しに活かすようにしている。「気づき」「関わり」の欄を設けて入居者の声など記録する様にしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、その都度柔軟な対応で支援しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やふれあいサロンへの参加を積極的に行い、地域との繋がりができ、楽しむ事が出来る様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族にかかりつけ医の希望は受け、家族が同行出来ない時は、職員が同行する有料サービスもある。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、入居者の密着した様子観察を行い些細な変化も見落とすことなく、隣接の施設内の看護師やかかりつけ医、協力医療機関の看護師と連携を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	速やかに情報を提供し、見舞いも頻回に伺う中で情報交換や相談に努め、関係作りに努力している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と相談し対応を決めている。（契約時に終末期の同意書を取交している）		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や訓練を定期的に行い、目の届くところにマニュアルを置き、職員全員が手当や初期対応が出来る様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2月、8月には必ず避難訓練を行い消防署の方から消火器の使い方や設置場所、避難経路の確認を行っている。避難訓練には、近くの家族や近所の方も参加されている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活行動を職員が把握し、情報を共有して本人に合った声掛けと対応を行っている。尊重する介護を心掛けている		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何を望んでいるのかを理解する為に、常に声掛けを行い、話をよく聞くようにしている。職員が誘導するのではなく、自分で考え、行動出来る様に対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの生活リズムはあるが、入居者の体調やその日の気分、状態にあった無理のない生活を送っている。職員も柔軟に対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の状態で、本人の好みにまかせる事もあるが、職員が入居者と一緒になって決めている。化粧やその日の衣服、髪型にも気遣っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつ作りは、入居者が出来る事はしてもらっている。会話を交えながら楽しく食事が出来る様にしている。時々、外食にも出掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全てを記録する事によって把握でき、その日の体調や気分により、その都度対応している。特に水分補給には注意している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。本人になるべく行ってもらうが、必要に応じて職員が介助している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄は、少しでも失禁を減らすように心掛けている為、記録をつけて把握している。自尊心を傷つけない様に声掛けしている。日中はオムツにしない介護を目指している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で、体をよく動かすようにしている。腹部にホットパックをあて、温める。水分補給は好きな飲み物で補給する様になっている。（ポカリ、牛乳等）繊維質の多いおやつ作りを考え、取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	清潔保持をする為に、入浴する様に声掛けしているが、本人の体調や気分に合わせている為、無理に入浴は進めていない（清拭をしている）毎回入浴される方もいる。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく他の入居者と過ごす工夫をしているが、疲れや休息が必要と思われる方は、自室に誘導している。ご自分の好きな場所で休まれている。（リビングのソファや窓辺の暖かい所）		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を各人のケアチェック表に入れて全員が確認出来る様にしている。薬のセットや服用するまでには、複数の職員のチェックを経てミスのないようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に合った役割を分担する事により、残存能力を活かして無理なく楽しみが継続できるようにしている。出来る事、出来ない事を観察し把握している。情報を活かしたレクリエーションや行事を実行している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の性格を把握し、気分や体調に合わせて、散歩、買い物、ドライブ、外食等希望に添うようにしている。地域主催のイベントやふれあいサロンに出掛けている。ご家族にも外出や外泊を勧めている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が、金銭管理が出来ないので、個人のお金は預かり金として管理者が預かる。買い物や外食の時は、職員が財布を手渡し、自分で払って貰っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をしたり手紙や年賀状など定期的に出せるように支援している。贈り物などがあれば、お礼の電話を入れたり出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なものは置かず、導線を考え、動きやすくしている。季節を感じられる物を一緒に作り、飾っている。玄関先に季節の花や緑と一緒に植えている。静かな環境で過ごせるようにテレビや声の調子にも気をつけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファなど危険の無いように配慮に、個人に合った椅子を設置して自由に過ごせるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンは防災カーテンで統一しているが、その他は自宅の物を配置している。仏壇を持ち込まれている方は、安心して過ごされている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無駄や危険な物は置かない様にし、通路に手摺を設置している。また、生活の導線上は目印や矢印、張り紙をして自由に動けるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない